

## 「日本も元気にする青年海外協力隊」トークイベント開催

01

9月4日、JICA主催、読売新聞社主催による国際協力トークイベント「日本も元気にする青年海外協力隊」が東京・神保町で行われ、244人が来場しました。

第一部の基調講演では、五輪女子マラソンメダリストの有森裕子さんが、「希望と勇気を分かち合う〜未来を担う若者へのメッセージ」をテーマに講演。スポーツによる人材育成のために自身で立ち上げたNPO法人ハート・オブ・ゴールドでは、被災地の子どもたちが一日も早く学校生活に戻り、心身ともに元気になるよう、スポーツや心のケアなどを通して支援を行っていることを紹介しました。またこれまでの経験から、国内外での支援活動では「専門性を持つ人がアイデアを出し合って課題を解決することが必要」と強調。カンボジアでは、「地元文化に詳しい協力隊が心強い存在」であることも明かしていました。

在は若手県陸前高田市の仮設住宅に暮らす被災者の声を集約しながら、被災地支援を行う団体同士が情報共有する場の提供など、さまざまな支援をしています。「海外に出て多くのことを学んだら、それをいかにして日本国内に還元していくかが大切だと思っています」と語りました。

また、NPO法人ピースウィンズ・ジャパンのスタッフで、現在、宮城県南三陸町の漁業再興を支援している同町出身の西城幸江さんも協力隊OG（パラグアイ・村落開発）。「海外では発見の連続。ボランティアにぜひチャレンジを」とエールを送りました。財団法人都市防災研究所の荒木田勝さんは、日本の防災技術を中米の国々に伝えるプロジェクトで隊員と連携した経験があり、「彼らにはコミュニケーション能力が高い人が多い」と評価。最後に野坂さんが「海外経験者は問題意識が高い。日本への還元方法もいろいろな可能性があるのだと思います」と締めくくりました。

第二部では、読売新聞東京本社論説副委員長野坂雅一さんをコーディネーターに、東日本大震災の復旧・復興支援に取り組む3人のパネリストが、「今、日本に求められる『グローバル人材』をテーマとしたパネルトークに参加。協力隊OBの河内毅さん（グアテマラ・森林経営／村落開発）は、帰国後に社団法人中越防災安全推進機構に所属し、防災を切り口にしたコミュニティづくりに従事。その経験を生かし、現

在は具体的な見直しを求められている時期でもあります。8月29日にはボランティア事業のあり方を検討する公開セミナーも開催されました。セミナーの詳しい内容は、JICAのホームページ（[www.jica.go.jp/topics/2011/20110902\\_02.html](http://www.jica.go.jp/topics/2011/20110902_02.html)）をご覧ください。



「自分だからこそのボランティア活動してほしい」と語った有森さん



パネリストからは、JICAボランティアへの参加を考えている来場者に力強いエールが送られた

## パレスチナの難民問題を考えるシンポジウム開催

02

8月29日、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）、外務省、JICA、財団法人中東調査会の共催で、シンポジウム「激変する中東情勢とパレスチナ難民―UNRWAと日本の役割」が開催されました。

冒頭、フィリップ・グランディUNRWA事務局長が基調講演を行い、「中東の民主化運動、アラブの春」によってパレスチナの人々の和平交渉への期待が高まっている。政治的な解決が必要」と強調しました。続いて、有馬龍夫・中東調査会理事長の進行でパネルディスカッションが行われ、緒方貞子JICA理事長、グランディUNRWA事務局長、上村司・外務省中東アフリカ局参事官、立山良司・防衛大学校教授が参加。アラブの春が中東和平に与える影響や、今後の日本政府とJICA、UNRWAのパレスチナ難民問題解決に向けた支援について議論が行われました。

シンポジウムに先立ち、JICAとUNRWAは、母子保健や教育、水衛生分野での連携体制の強化のため、包括協力協定に署名。また、JICAは2011年5月から職員をUNRWAに派遣。今後もパレスチナ難民問題の解決に向けて支援していきます。



「日本はパレスチナ難民の支援に多大な貢献をしてくれている」とグランディUNRWA事務局長（右）。隣は緒方JICA理事長

## JICAとゲイツ財団が、共にポリオ撲滅を支援

03

JICAとビル&メリンダ・ゲイツ財団は、8月18日、世界でのポリオ撲滅対策などの強化に向けた「戦略的パートナーシップ」を結ぶことを発表しました。その第一弾として、両機関はパキスタンのポリオ撲滅支援のための合意文書を締結。調印式の後、ビル・ゲイツ共同議長は、「このパートナーシップの締結は非常に時宜を得たもの。ポリオのない世界を達成する一助になれば」と述べました。

このJICAとゲイツ財団との連携には、「ロビン・コンバージョン」という革新的な手法が用いられます。今年8月にJICAとパキスタン政府が調印したポリオ対策のための円借款を通じ、パキスタン政府が事業を成功裡に実施できれば、ゲイツ財団が同国政府に代わってJICAに債務返済を行うものです。これにより、ポリオ撲滅に向けたパキスタン政府の努力をより一層引き出しつつ、最終的に同国に債務負担を課すことなく、ポリオ撲滅対策を支援することができます。

パートナーシップの締結を受け緒方貞子JICA理事長は、「JICAはこれまでの途上国支援で得た相手国政府との強固な協力関係を生かし、途上国政府と民間の新興ドナーとの触媒的な役割を果たしていきたい」と述べました。



「この取り組みが世界の子どもたちに恩恵をもたらすことになれば」と述べたゲイツ氏（手前） ©2011 Bill & Melinda Gates Foundation/Barbara Kinney